

国指定天然記念物指定十周年記念

特別展 古秩父湾

秩父盆地の海獣の海

展示紹介



加藤 涼雅

平成 28(2016) 年 3 月 1 日に秩父市、横瀬町、皆野町、小鹿野町に点在する 6 か所の露頭*と、長瀬町に所在する当館が所蔵するパレオパラドキシアやチチブクジラなどの化石標本 9 件が国指定天然記念物として指定されました。「古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群」として指定されたこの天然記念物は、哺乳類の化石として、また複数の化石標本や露頭を一括して天然記念物指定した初めての例となりました。特別展「古秩父湾ー秩父盆地の海獣の海ー」は、この天然記念物指定から 10 年を記念し、令和 8 年 6 月 27 日(土)より開催しています。

本展示は、かつて秩父盆地に広がっていた海、「古秩父湾」の誕生から消滅までのストーリーや、その海の象徴的な化石動物であるパレオパラドキシアに焦点を当て、4 つの章から構成しています。

第 1 章 秩父の大地に眠る 太古の海の話

この章では、古秩父湾の誕生から消滅までのストーリーを、誕生・深海・浅海・消滅の 4 つの時代に分け、産出化石を中心に紹介しています。

古秩父湾は、約 1700 万年前、日本列島形成の中で誕生し、パレオパラドキシアなどの動物が進出してきました。その後、約 1600 万年前になると、日本列島の広い範囲が沈降し、古秩父湾は深海の環境に変わります。それから約 50 万年経った約 1550 万年前、再び浅い海的环境へ変わり、多くの海棲哺乳類が生息するようになると同時に湾の東縁が隆起し始めました。その後、約 1540 万年前に古秩父湾は消滅しました。深海の時代は大型化石の産出がないため、あえて展示ケースの中を

空にして強調しました。また、県内にある古秩父湾と同じ時代の地層(古秩父湾相当層)から産出した化石についても紹介しています。



古秩父湾の地形と変遷

地形模型で現在の秩父地域の地形を知り、時系列ごとに古秩父湾の成り立ちを知ることができる。

第 2 章 古秩父湾の海獣ーパレオパラドキシアー

この章では、古秩父湾を代表する海獣、パレオパラドキシアについて分類学的、骨学的に掘り下げて徹底的に解説しています。

分類学エリアでは、近縁のデスモスチルスなど他の束柱類との系統関係、そして他の哺乳類との系統関係について、これまでの研究を解説しました。また、国内外の標本や生体復元を展示し、パレオパラドキシアという動物がどう解釈されてきたのかを紹介しています。

骨学エリアでは、特徴的な歯をはじめ、胸骨や肢骨など、パレオパラドキシアの骨について詳細に解説しています。これを見ればパレオパラドキシアの全てが分かる、と言っても過言ではない程の充実ぶりです。

※地層や岩石、鉱床が露出する場所のこと。



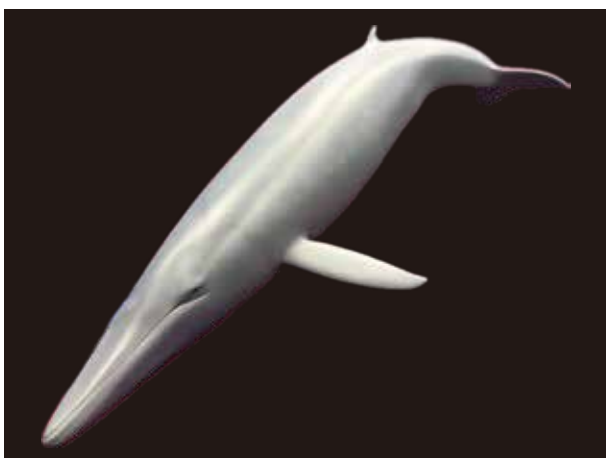
パレオパラドキシアの骨学

全身骨格と実物化石を並べて展示することで、骨の配置と各部位の特徴を把握できる。

第3章 海獣の海の住民たち

古秩父湾に生息していたのはパレオパラドキシアだけではなく。この章では、古秩父湾に生息していた様々な動物の実物化石を展示しています。チチブクジラを代表とするヒゲクジラやハクジラなどの鯨類、鰐脚類、鳥類、そしてメガロドンを代表とする魚類など、古秩父湾堆積層からは様々な海の動物たちの化石が産出しています。まだ研究途中のものも多く、大きな発見の可能性も秘めたロマンあふれる化石ばかりです。

また、本展示の開催にあたり、新たに指定標本のひとつであるチチブクジラの復元模型を制作しました。チチブクジラは主に頭骨しか産出していないため、現生のナガスクジラ科を参考にしました。チチブクジラの化石は常設展示室にて展示しています。



チチブクジラの復元模型

当館のパレオパラドキシアの生体復元模型の制作も手掛けた模型作家、徳川広和さんが制作した。

第4章 古秩父湾と秩父

この章では、秩父地域の暮らしと古秩父湾の関わりについて、写真を用いて紹介しています。秩父地域は、昔から露頭や化石産地が観光名所として紹介されていたり、多くの地学巡検ルートがあるなど観光や教育の場として利用されてきました。秩父札所をはじめ、身の回りの生活の場にも地質と深い関係があるものが多くあります。

同時開催の巡回展

開催にあたり、秩父地区文化財保護協会古秩父湾作業部会（以下、古秩父湾作業部会）の特別協力をいただきました。国指定天然記念物の活用事業を担っている古秩父湾作業部会では、古秩父湾に関する写真や絵画、書道作品を募集するコンテストを毎年行っています。本展示にあわせて、巡回展「令和7年度アート&書コンテスト入賞作品展」を同時開催しています。本展示のポスターはアート部門の最優秀賞です。その他、これまでのコンテスト歴代入賞作品が、展示や図録の中にも多数使われています。



令和7年度アート&書コンテスト入賞作品展

巡回展は秩父地域1市4町と県立自然の博物館、県立川の博物館の全7ヶ所で展示される。

おわりに

来年度から、保存活用計画の更新など「古秩父湾」の新たな10年が始まります。本展示で紹介した古秩父湾の物語が、埼玉県の自然や文化財を知るきっかけになれば幸いです。

(かとう りょうが・学芸員)